

平成27年度稚内北星学園大学地域志向教育研究経費採択課題 水族館多言語化プロジェクト 始動



稚内北星学園大学 地域観光支援室

本学では、COC推進事業の一環として、教育研究のための競争的資金「地域志向教育研究経費」を本年度から創設しており、初年度となる平成27年度は、4件（応募8件）を採択した。

このほど採択課題の一つ、「インバウンドを意識した観光施設づくり—本学のシーズを活かした試行—」（研究代表者：黒木 宏一講師）通称：水族館多言語化プロジェクトにおいては、第1次の参加学生の募集を終え、プロジェクトの舞台となる「ノシャップ寒流水族館」の第1回巡検を行った。



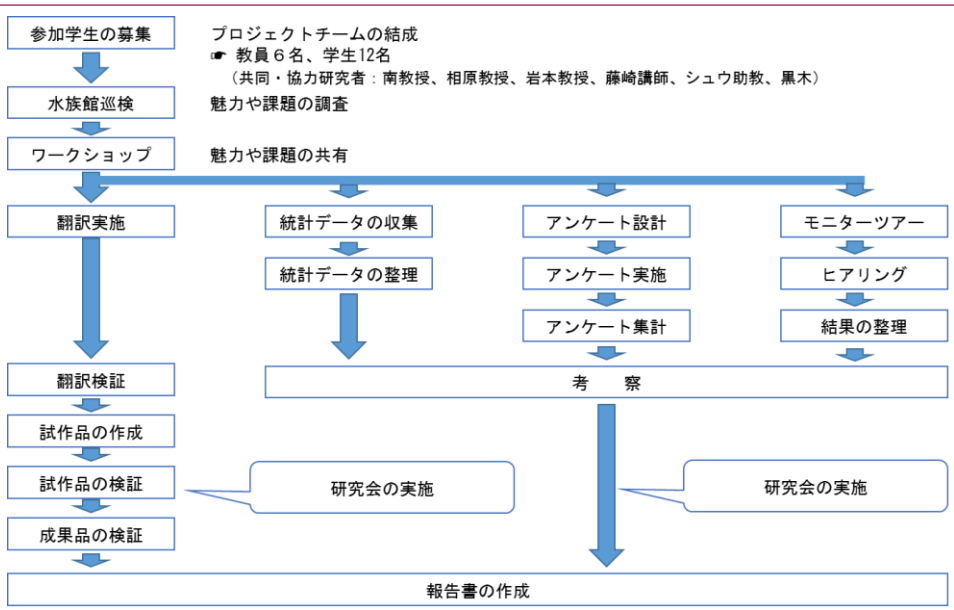
＜採択課題の内容＞

平成22年に策定された「稚内市観光振興計画」では、外国人観光客が重点顧客と位置づけられており、地元観光事業者の間ではロシア人以外にアジア諸国からも多くの観光客が訪れている現状と、顧客層の拡大には海外旅行者対応が欠かせない要件であることが述べられている。（前掲計画書10～15ページ）さらに、具体的な施策として外国人に対する接客サービスの向上が掲げられている。（前掲計画書63ページ）

このような中で、観光施設においてインバウンドへの対応が未だ不十分である現状が見受けられる。たとえば、ノシャップ寒流水族館では、中国人（台湾人）を中心に観光バスで横付けしているものの、館内の展示説明が日本語のみで、楽しみ方がわかっていない。

そこで、本研究は、本学のシーズを活かしてこの問題の解決を図ろうとするものであり、その過程を整理し検証しようとするものである。具体的には稚内市ノシャップ寒流水族館における館内の展示説明の多言語化を行う。その際、本学のシーズである留学生の存在（英語、ロシア語、中国語）と専門家（英語、ロシア語、中国語）を活かすとともに、安価な方法でこれを実現するという経済的、旅行者行動論的側面も合わせて検討する。

＜プロジェクトの全体像＞



**ノシャップ寒流水族館多言語化プロジェクト
参加学生募集（ご案内）**

内容
ノシャップ寒流水族館において展示説明の多言語化（英語、ロシア語、中国語の翻訳）を行うとともに、体験型アンケート調査やモニターツアーの実施を行います。

募集期間
制作作業等は14日アルバイトとして雇用し、機会を定めます。その他、アンケート調査等を実施する場等は要相談です。

募集対象
アジア系学生を主とする学生を募集します。

第1回 4月17日（金）11時10分～（30分程度）
第2回 4月17日（金）11時50分～（30分程度、第1回と同じ内容です）

本館203号収容にて開催します。興味のある方は、是非お越しください。

問い合わせ先
地域観光支援室 黒木 宏一（くろき ひろかず）
〒097-0013 稚内市若葉台1丁目2290-28

お問い合わせ先 稚内市若葉台1丁目2290-28 黒木宏一 電話 0162-32-7511 FAX 0162-32-7500 (2015.5.25)
URL <http://www.wakhok.ac.jp/coc.html> E-mail info(アット)wakhok.ac.jp ※(フット)は@に変換してください

図表 学生募集用フライヤー

＜プロジェクトの意義と発展可能性＞

本事業の意義

教育効果

- ・翻訳のプロセスを知る
- ・連携のプロセスを知る
- ・マーケティングの理解
- ・消費者行動の理解
- ・経済性の理解、など

研究

- ・シーズの提供
- ・地域連携のプロセスの事例研究、など

地域貢献

- ・地域連携による観光施設の向上
- ・インバウンドへの対応強化、など

研究の発展可能性

- ① スマートフォン等電子端末検索への対応
（☛ 本学ならではの視点）
- ② ニーズへの更なる対応（中国語への対応）
- ③ 多言語化事業の効果の検証の継続、及びその深化
（☛ 緩やかな効果発現の観測）
- ④ 他施設への応用研究
（☛ 研究・教育・地域貢献の広がり）